



# オリゴグルコサミン経口投与におけるNK細胞活性からみた ヒトに対する免疫賦活性の検討

— 健常被験者を対象としたプラセボとのクロスオーバー二重盲検試験結果 —

梶本修身他、日本臨床栄養学会雑誌, 21(1): 41-47, (1999).

要約:オリゴグルコサミンの単回経口投与時の経時的な免疫賦活効果について、ナチュラルキラー細胞(NK細胞)活性を用いて評価した。対象は、公募に応じた健常者33名のうち、試験実施前の2週間以内に消炎鎮痛薬抗生物質などの医薬品や栄養補助食品を服用したものの、風邪症状、下痢、原因不明の発熱をきたした者、月経期間中の女性、カフェイン多量摂取者(コーヒー・紅茶5杯/日以上)、多量喫煙者(20本/日以上)及び試験当日の禁煙を拒否した者など免疫能に影響を与える可能性のある者を除外した15名(男性6名、女性9名)で、平均年齢は $26.7 \pm 4.6$ 歳であった。試験は、プラセボとのクロスオーバー二重盲検を採用し、被験者において試験品以外の要因がNK細胞活性に影響しないよう試験前夜から終了まで飲食、睡眠を含めた行動、環境において同一条件で実施した。その結果、プラセボ投与群あるいはオリゴグルコサミン1000mg投与群の投与6時間後および9時間後における上昇率は、プラセボ投与群の日内変動によると考えられる上昇率に比して有意に高かった。以上の結果から、オリゴグルコサミンが経口投与において、NK細胞活性化による免疫賦活作用のあることが示唆された。

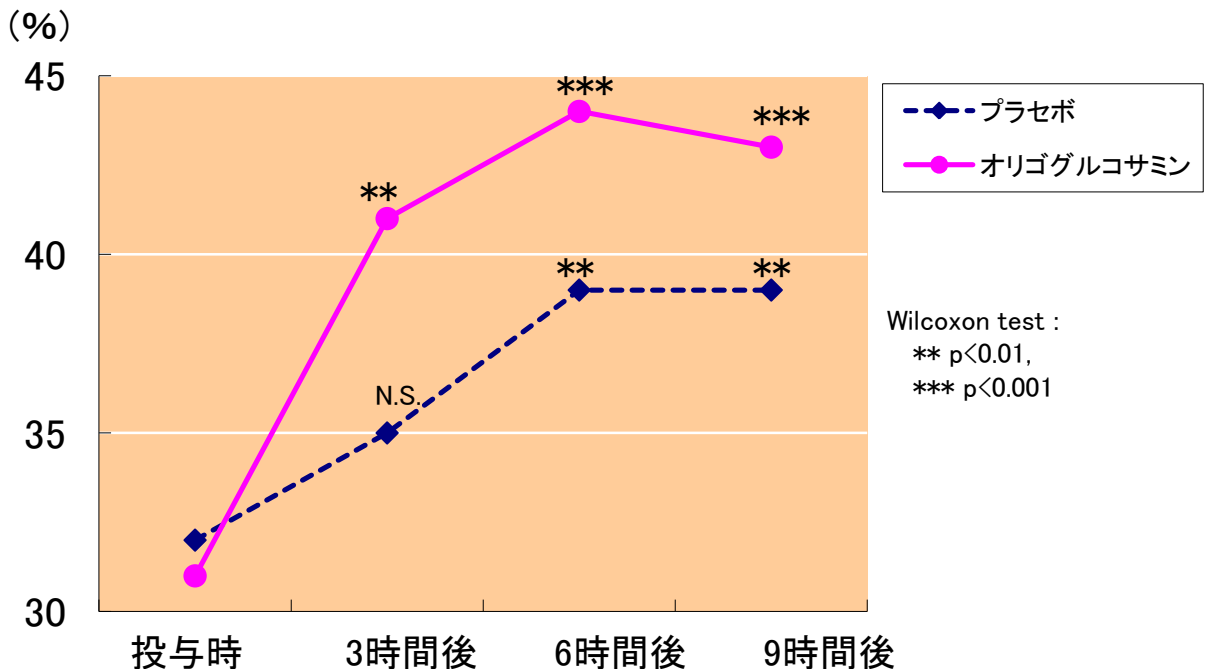


図1. 投与後のNK細胞活性値(平均値)